

現 場 説 明 書

1 工事名 令和6年度 (仮称) 東消防署柃形分署庁舎新築工事 (建築工事)

2 工事場所 弘前市大字松原西三丁目地内

「■」印または「□」印のついたものについては、「■」印の付いたものを適用する。

3 一般共通事項

(1) 工事費等の算定について

工事費等の算定に用いる工事積算基準 (諸経費算定等) については、「公共建築工事積算基準 (最新版)」、「青森県建築工事積算基準 (最新版)」、「青森県建築工事共通費積算基準 (最新版)」、「青森県建築工事単価等決定要領 (最新版)」、「青森県建築工事積算における数値の取り扱い要領」、「青森県建築工事積算基準等資料」を準拠する。

(2) 共通仮設費率及び現場管理費率の算定に用いる工期 (T) は、12.0ヶ月とする。

(3) 余裕期間制度について

本工事は余裕期間制度を適用しない。

※余裕期間制度の詳細は、青森県県土整備部整備企画課ホームページ掲載の「「余裕期間制度」実施要領」による。

(4) 週休2日確保工事について

■ 本工事は週休2日確保工事の対象としない。

□ 本工事は受注者希望方式の週休2日確保工事である。

□ 本工事は発注者指定方式の週休2日確保工事である。当初設計において、4週8休以上を確保した場合の労務費補正を行っており、受注者は週休2日の確保に取り組まなければならない。

※週休2日確保工事の詳細は、青森県総務部財産管理課ホームページ掲載の「建築工事における「週休2日確保工事」実施要領 (試行)」による。

(5) 工事情報共有システム (ASP) について

本工事では工事情報共有システム (ASP) を利用しない。

※工事情報共有システム (ASP) の詳細は、青森県総務部財産管理課ホームページ掲載の「建築工事における工事情報共有システム (ASP) 利用基準」による。

(6) 工事上の留意事項

本工事の施工に伴う周辺道路、建築物、工作物等への損傷に対する復旧や、補償などに要する費用は、すべて受注者の負担とする。

現場周辺の道路における通行者等の安全に充分留意をし、付近住民への迷惑行為のないよう配慮すると共に、TV 受信障害の苦情に対しては速やかに監督員と協議すること。また、近隣との相互理解に努め、発注者と連絡を密にし、付近の住民に対して誠意と責任のある対応をすること。

(7) 工事の施工にあたっては、工事用資材等を運搬するダンプトラック等の大型自動車による交通事故防止の観点から、土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法第12条に規定する団体等への加入者の使用を促進すること。

(8) 受注者は、建設業退職金共済制度に該当する場合は同制度に加入し、その掛金収納書 (発注者用) を工事請負契約締結後原則1カ月以内 (電子申請方式による場合にあっては、工事請負契約締結後原則40日以内) に、発注者に提出しなければならない。また、受注者は、建設業退職金共済制度について、建設キャリアアップシステムの活用等により技能労働者等の就労状況を適切に把握し、これに基づく履行状況について、工事完成後、速やかに掛金充当実績総括表等を作成し、発注者に提示しなければならない。

(9) 受注者 (受注者と契約に基づき事業を実施する者を含む。以下同じ) は、この契約にかかる工事の施工に必要な無技能労働者について、公共職業安定所の紹介する失業者を雇用するよう努めること。

(10) 請負代金額に対する年度の支払限度割合

令和6年度 57 % (出来高割合は63.4%以上とすること。)

令和7年度 43 %

(11) 暴力団員等による不当介入に対する通報・報告義務

受注者は、受注者及び下請負者に対して暴力団員等による不当介入があった場合、警察及び発注者へ通報・報告しなければならない。また、警察の捜査上必要な協力を行うものとする。

(12) 火災保険等について

請負契約書第56条の規定により、工事目的物及び工事材料を下記保険に付すこと。

ア 保険種別

保険種別は下記のとおりとし、いずれかの保険契約をすること。

普通火災保険、火災建築保険、建設工事保険、組立保険

イ 加入を要しない単独工事

外構、植栽、書架制作据付、地盤調査、解体、敷地調査、草地造成等

ウ 保険契約の時期、加入期間、対象金額

保険種別		加入期間	加入期間	保険対象金額
建設工事保険		工事開始時	工期後19日	請負金額の100%以上
組立保険		機材搬入時	同上	同上
普通火災保険	建築	基礎完了時	同上	請負金額の85%以上
火災建築保険	設備	機材搬入時	同上	請負金額の95%以上
	その他	機材搬入時	同上	請負金額の100%以上

契約変更に伴い、当初の請負金額の15%を超える増額(累計した額)が行われた場合、又は工期を延長した場合は、必要に応じ前表に準じて加入内容変更の措置を講ずること。

エ 受注者は、保険証書の写しを発注者に1部提出すること。

(13) 法定外労災保険の契約

受注者は、労働者災害補償保険法に基づく労災保険のほかに、法定外の労災保険の契約を締結しなければならない。保険証券等を監督職員に提示し、確認を受けること。

(14) 工事実績情報サービス(CORINS)への登録について

受注者は、工事請負代金額500万円以上の工事について、受注・変更・完成・訂正時に工事実績情報を登録申請しなければならない。

工事実績情報として「登録のための確認のお願い」を作成し、監督職員の確認を受けたうえ、登録するものとする。提出期間は公共建築工事標準仕様書による。

問合せ先 一般財団法人日本建設情報総合センター(03-3505-2981)

(15) ワンデーレスポンスの実施について

本工事は、ワンデーレスポンス実施対象工事である。「ワンデーレスポンス」とは、受注者からの質問、協議への回答は、基本的に「その日のうち」に回答するよう対応することである。ただし、即日回答が困難な場合は、いつまでに回答が必要なのかを受注者と協議のうえ、回答期限を設けるなど、何らかの回答を「その日のうち」にすることとする。

ア 受注者は計画工程表の提出にあたって、作業間の関連把握や工事の進捗状況等を把握できる工程管理方法について、監督職員と協議を行うこと。

イ 受注者は工事施工中において、問題が発生した場合及び計画工程と実施工程を比較照査し、差異が生じた場合は速やかに文書にて監督職員へ報告すること。

ウ 発注者が効果・課題等を把握するためアンケート等のフォローアップ調査を実施する場合、受注者は協力すること。

(16) ウィークリースタンスの推進について

本工事は受発注者協力のもと、建設業の働き方改革推進のためウィークリースタンス等の推進を図ることとし、下記の事項について工事着手前に受発注者間で共有し、工事を進めていくこととする。

ア 打合せ時間の配慮：打合せは、勤務時間内に行う。

イ 資料作成依頼の配慮：資料作成依頼は、休日等に資料を作成しなければならない状況が発生しないよう十分に配慮する。

ウ ワンデーレスポンスの再徹底：問合せに対してワンデーレスポンスを徹底する。

(17) デジタル工事写真の黒板情報電子化について

デジタル工事写真の黒板情報電子化は、受発注者双方の業務効率化を目的に被写体画像の撮影と同時に工事写真における黒板の記載情報の電子的記入および、工事写真の信憑性確認を行うことにより、現場撮影の省力化、写真整理の効率化、工事写真の改ざん防止を図るものである。

本工事でデジタル工事写真の黒板情報電子化を行う場合は、工事契約後、監督職員の承諾を得たうえでデジタル工事写真の黒板情報電子化対象工事(以下「対象工事」という。)とすることができる。対象工事では、以下のアからエの全てを実施することとする。

ア 対象機器の導入

受注者はデジタル工事写真の黒板情報電子化の導入に必要な機器及びソフトウェア等(以下「使用機器」という。)について、営繕工事写真撮影要領2.(3)撮影方法に示す項目の電子的記入ができること、かつ信憑性確認(改ざん検知機能)を有するものを使用することとする。なお、信憑性確認(改ざん検知機能)は、「電子政府における調達のために参照すべき暗号のリスト(CRYPTRECH暗号リスト)」に記載している技術を使用していること。また、受注者は監督職員に対し、工事着手前に本工事での使用機器について提示するものとする。

使用機器の事例として「デジタル工事写真の黒板情報電子化対応ソフトウェア」を参照されたい。ただし、この使用機器の事例からの選定に限定するものではない。

イ デジタル工事写真における小黑板情報の電子的記入

受注者はアの使用機器を用いてデジタル工事写真を撮影する場合、被写体と小黑板情報を電子画像として同時に記録してもよい。小黑板情報の電子的記入を行う項目は、営繕工事写真撮影要領2. (3) 撮影方法による。ただし、対象工事において、高温多湿、粉じん等の現場条件の影響により、対象機器の使用が困難な工種については、使用機器の利用を限定するものではない。

ウ 小黑板情報の電子的記入の取扱い

本工事の工事写真の取扱いは営繕工事写真撮影要領に準じるが、イに示す小黑板情報の電子的記入については営繕工事写真撮影要領4. で規定されている写真編集には該当しない。

エ 小黑板情報の電子的記入を行った写真の納品

受注者は、イに示す小黑板情報の電子的記入を行った写真(以下「小黑板情報電子化写真」という。)を工事完成時に監督職員へ納品するものとする。なお、受注者は納品時に工事写真信憑性チェックツール又はチェックシステム(信憑性チェックツール)を搭載した写真管理ソフトウェアや工事写真ビューアソフトを用いて、小黑板情報電子化写真の信憑性確認を行い、その結果を併せて監督職員へ提出するものとする。

なお、提出された信憑性確認の結果を、監督職員が確認することがある。

【参考】

電子政府における調達のために参照すべき暗号のリスト(CRYPTREC暗号リスト)

<https://www.cryptrec.go.jp/list.html>

使用機器の事例及びデジタル工事写真信憑性チェックツール

http://www.cals.jacic.or.jp/CIM/sharing/index_digital.html

(18) 遠隔臨場による施工検査等

本工事は建設現場の遠隔臨場に関する試行工事の対象としない。

※施工検査等の遠隔臨場の実施については、青森県県土整備部整備企画課ホームページ掲載の「建設現場の遠隔臨場に関する試行要領」による。

(19) 青森県認定リサイクル製品の使用

本工事は「青森県認定リサイクル製品優先使用指針」に基づき、「青森県認定リサイクル製品」を使用し工事を実施するよう努めるものとする。なお、「青森県認定リサイクル製品」の入手が困難な場合のほか使用できない理由がある場合は、その旨を「書面」で提出し、監督職員の承諾を得て新材製品を使用するものとする。(Aグループのみ)

【青森県認定リサイクル製品優先使用指針-使用上のグループ区分に基づく認定製品の使用】

Aグループ	特段の理由がない限り、優先使用に努める。
Bグループ	試験的な使用等、積極使用に努める。

※使用上のグループ区分は価格と施工実績によるもので製品の優劣で定めたものではない。Bグループの製品であっても使用できる工種がある場合は使用するよう努めるものとする。

認定リサイクル製品の使用上のグループ区分、パンフレット及び優先使用指針は下記の環境政策課ホームページに掲載している。

http://www.pref.aomori.lg.jp/nature/kankyo/nintei_recycle.html

(20) 市場単価について

本工事では「官庁営繕工事に適用する市場単価(令和5年度単価)の運用について(試行)」

(令和5年3月29日付け国営積第16号)を適用する。

(21) 縦覧設計書の公開数量について

本工事の縦覧設計書の公開数量は「参考数量」であり、工事請負契約に規定する設計図書に該当しないものである。

(22) 作業員の安全確保について

工事に際しては『労働安全衛生法』等関係法令を厳守し、作業員の安全を確保すること。

(23) 主任技術者又は監理技術者の専任について

請負契約締結後、現場施工に着手するまでの期間及び完成検査終了後、事務手続や後片付け等のみが残っている期間については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。なお、現場施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督職員との打合せにおいて定める。

(24) 現場代理人の常駐義務及び主任(監理)技術者の専任要件について

本工事における現場代理人の常駐義務及び主任(監理)技術者の専任要件については、兼務要件を満たす場合に限り緩和措置を適用する。その際は兼務届を提出すること。詳しくは「弘前市発注の建設工事における技術者等の取扱いについて」による。

4 現場環境改善(快適トイレの設置)

- (1) 本工事では、受注者が「快適トイレ」の設置を希望する場合に、従来型トイレとの差額を計上できるものとする。

- (2) 受注者は、「快適トイレ」の設置を希望する場合、以下のアからサの仕様を満たすトイレを設置するものとする。シからチの項目については、満たしていればより快適に使用できると思われる項目であり、必須ではない。

【快適トイレに求める標準仕様】

- ア 洋式便座
- イ 水洗機能（簡易水洗、し尿処理装置付きを含む）
- ウ 臭い逆流防止機能（フラPPER機能）
- エ 容易に開かない施錠機能（二重ロック等）
- オ 照明設備（電源がなくても良いもの）
- カ 衣類掛け等のフック付き、又は、荷物置き場設備機能（耐荷重5kg以上）

【快適トイレとして活用するために備える付属品】

- キ 現場に男女がいる場合に男女別の明確な表示
- ク 入口の目隠しの設置（男女別トイレ間も含め入口が直接見えないような配置等）
- ケ サニタリーボックス（女性専用トイレに限る）
- コ 鏡付きの洗面台
- サ 便座除菌シート等の衛生用品

【推奨する仕様、付属品】

- シ 室内寸法 900×900mm 以上（半畳程度以上）
- ス 擬音装置
- セ 着替え台（フィッティングボード等）
- ソ フラPPER機能の多重化
- タ 窓など室内温度の調整が可能な設備
- チ 小物置き場等（トイレトペーパー予備置き場）

- (3) 設置に要する費用については、当初積算時には計上していない。(2)を満たしていることを示す書類及び見積書を作成のうえ監督職員と協議し、設計変更時に計上できるものとする。
- (4) 計上費用は、実際に要した費用のうち従来型トイレ(10,000円/基・月)との差額について51,000円/基・月を上限に共通仮設費に計上するものとし、男女各1基ずつの計2基(現場に女性がいらない場合は1基)まで計上の対象とする。計上費用の上限を超過した金額については計上を行わない。
- (5) 快適トイレは現場付近に設置するものを対象とし、現場事務所内に備え付けられているトイレは本項目の対象としない。
- ※快適トイレについての詳しい情報は、国土交通省ホームページやNP0法人日本トイレ研究所のホームページを参照。

5 施工条件等

(1) 適用基準等

- 営繕工事写真撮影要領(最新版) 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修
- 工事写真撮影ガイドブック(最新版) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- 青森県営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン(最新版)
- 青森県景観条例に基づき「青森県公共事業景観形成基準」及び「青森県景観色彩ガイドプラン」を遵守すること
- 建設副産物適正処理推進要綱
- 公共建築工事標準仕様書(最新版) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- 公共建築改修工事標準仕様書(最新版) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- 建築物解体工事共通仕様書(最新版)・解説 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修

(2) 環境物品等の調達方針

- 「青森県環境物品等調達方針」に定める特定調達物品「公共工事」の品目を調達する場合は、同方針で定める判断の基準を満たすものとする。

(3) 施工の制約

- なし
- あり(執務並行改修)

(4) 概成工期

- 設定しない。
- 設定する。(工期末より30日前とする。)

(5) 電気保安技術者

- 適用しない。
- 適用する。工事現場におく電気保安技術者は、標準仕様書による。

(6) 工事期間中停止させない設備

- ☒ なし
☐ あり

(7) 材料、機材の品質等

- ア 本工事に使用する材料及び機材等は、設計図書に規定するもの、又はこれらと同等のものとする。
- イ 「評価名簿による」と特記されたものについては、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿(最新版)」による。
- ウ 使用する機材等が前項(2)による場合は、評価書の写しをもって、標準仕様書第1編第1章第4節1・4・2(b)の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略できる。ただし、標準仕様書に規定される製作図・試験成績書等は除く。
- エ 本県に本店、支店、営業所を有するメーカー製品及び可能な限り県産材を使用すること。

(8) 「青森県リサイクル製品認定制度」に基づく認定リサイクル製品の使用について

- ア 青森県リサイクル製品の認定及び使用の推進に関する条例(青森県リサイクル製品認定制度)第9条第1項の規定により制定された「青森県認定リサイクル製品優先使用指針」に基づき工事が実施されるように努めること。
- イ 認定リサイクル製品を使用する場合は、監督職員の指示する様式に必要事項を記入し、公衆の見やすい場所に掲示すること。

(9) 化学物質を放散する建築材料等

- ア 仕上塗材、塗料、シーリング材、接着剤及びその他の化学製品の選択及び取扱いに当たっては、当該製品の製造所が作成した化学物質等安全データシートの内容を把握するとともに、現場に常備し、記載内容の周知徹底を図ること。
- イ 接着剤、塗料等の使用に当たっては、使用方法や使用量を十分に管理し、適切な乾燥時間をとること。また、施工時、施工後の通風、換気を十分に行い、室内に放散した溶剤成分等の希釈を図ること。
- ウ 使用する材料は、JIS Z 7253(GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS))による安全データシート(SDS)等により確認を行い、アスベスト含有建材を使用しないこと。

(10) 技能士

本工事の完成に必要な作業及びその作業に従事する職種(職業能力開発促進法施行規則別表第十一の三の三に掲げる職種に限る。)について適用する。ただし、これにより難しい場合は監督職員と協議する。

(11) 特別な材料の工法

標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、材料製造所の指定する工法とする。

(12) 監督員事務所

- ☒ 設けない。
- ☐ 設ける。仕様等は下表を標準とする。

部位等	仕様等
規模	2号(20㎡)程度
床	合板張又はビニル床シート張
内壁・天井	合板又はせつこうボード張、合成樹脂エマルジョンペイント塗
屋根	塗装溶融亜鉛めっき鋼板張、又は鉄板張のうえ調合ペイント塗
備品	保護帽、ゴム長靴、雨ガッパ、机、いす、ホワイトボード、懐中電灯、消火器、電話、書棚、衣類ロッカー、掛時計、温度計、冷暖房機器、湯沸かし器

(13) 工事用仮設等

- ・工事用水(構内既存の施設)
- ☒ 利用できない
- ☐ 利用できる(有償:工事用給水設備の費用及び使用料は受注者の負担とする。)
- ・工事用電力(構内既存の施設)
- ☒ 利用できない
- ☐ 利用できる(有償:工事用電気設備の費用及び使用料は受注者の負担とする。)
- ・交通整理員
- ☐ 置かない
- ☒ 置く(工事期間中220人)
- ・墜落制止用器具(フルハーネス型)
- ☒ 使用を指定しない
- ☐ 使用を指定する

(14) 施工中の環境保全等

施工に使用する建設機械は、低騒音型、低振動型及び排出ガス対策型建設機械とすること。

(15) 建設副産物の適正処理

ア 総則

建設副産物の処理に当たっては「建設副産物適正処理推進要綱」及び「平成18年版建築工事における建設副産物管理マニュアル・同解説(国土交通省)」によること。また、関係法令等に基づき適正な手続き及び処理をするとともに、再資源化により得られた建設資材の積極的な活用に努めること。

イ 契約前の事前説明(建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(以下「建設リサイクル法」という。))第8条の規定による「対象建設工事」の場合に限る。)

落札者は契約締結前に、発注者に対して建設リサイクル法第12条第1項の規定による説明(書面の様式は発注者の指示による)を行うこと。

ウ 産業廃棄物税

本工事に伴って生じる産業廃棄物のうち、最終処分場(中間処理施設経由を含む)に搬入する産業廃棄物がある場合については、青森県産業廃棄物税が課税されるので適正に処理すること。なお、本工事において最終処分場(中間処理施設経由を含む)に搬入する産業廃棄物がある場合は、産業廃棄物税相当額を積算しているものである。

エ 建設発生土の搬出

☐ なし

☒ 以下のとおり搬出すること。

発生量	運搬距離	指定搬出先の名称及び所在地	備考
968.6m ³	7.0km	搬出先確定後に運搬距離含め協議の対象とする。	

オ 建設副産物の処理

とりこわしにより発生する建設副産物は、以下の施設での受入れとして積算している。

名称	施設の名称	施設の所在地	備考
コンクリート塊			
アスファルト・コンクリート塊			

カ 産業廃棄物収集運搬車に係る表示及び備え付け

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令」の規定により、運搬車を用いて産業廃棄物の収集又は運搬を行う場合には、自己の産業廃棄物を運搬する場合を含め、同法施行規則に定められた事項を車体の両側面に見やすいように表示するとともに、同規則に定められた書面を当該車内に備え付けること。

キ 産業廃棄物の適正な処理の確認

産業廃棄物に該当する現場発生材は許可処分場での処分とし、事前に収集・運搬及び処分業者の許可書の写しを提出すること。なお、工事写真に搬出及び処分場への搬入、計量の写真を添付すること。

マニフェストの提出はA票とE票の写し(完成時にE票が提出できない場合はD票とし、後日E票を提出すること)を品名ごとにまとめ、処分数量を集計し一覧表として提出すること。

ク 再資源化等の完了の報告(建設リサイクル法第9条の規定による「対象建設工事」の場合に限る。)

受注者は、再資源化等が完了したとき、監督職員に対して建設リサイクル法第18条第1項の規定による報告(書面の様式は監督職員の指示による。)を行うこと。

(16) 発生材(建設副産物)と処理方法

種別	対象品目	分析調査
発注者へ引渡しを要するもの	PCB含有機器類	
	微量PCB	
	PCB含有シーリング材	
再利用を図るもの		
再資源化を図るもの(注1)	コンクリート塊	
	アスファルト・コンクリート塊	
	建設発生木材	
	建設汚泥	
	建設混合廃棄物	
	金属類	
	小形二次電池	
	蛍光灯	
	HIDランプ	
	ガラス	
	硬質ポリ塩化ビニル管・継手	

特別管理産業廃棄物	アスベスト(除去作業に使用した保護具及び養生材を含む)	
	廃油	
	廃酸、廃アルカリ	
	ダイオキシン含有廃棄物	
特殊な建設副産物	フロン	
	ハロン	
	煙感知器(イオン化式)	
	六フッ化硫黄(SF6)ガス	
	PFOS	
	特定化学物質()	

(注1) 上記以外の廃棄物についても、可能な限り再資源化に努めること。

(17) 簡易型建設副産物実態調査

本工事は、建設副産物情報交換システム(通称COBRIS。以下「システム」という。)の登録対象工事であることから、施工計画作成時、工事完了時及び登録情報の変更が生じた場合は速やかに当該システムにデータの入力を行うものとする。なお、これにより難しい場合には、監督職員と協議するものとする。

ア 資源有効利用促進法省令に基づく再生資源利用(促進)計画の提出・説明及び現場掲示について

再生資源利用(促進)計画書については、工事着手前及び必要の都度、提出の上説明すること。
また、再生資源利用(促進)計画を作成し、工事現場の公衆が見えやすい場所に掲示すること。

イ 再生資源利用実施書・再生資源利用促進実施書

再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を作成した場合は、工事完了後速やかに実施状況を記録した「再生資源利用実施書」及び「再生資源利用促進実施書」を監督職員に提出すること。

(18) アスベストの事前調査

労働安全衛生法に基づく石綿障害予防規則及び大気汚染防止法に基づき、工事着手前に、石綿使用の有無に関する事前調査の結果についての説明書を監督職員に提出し説明すると共に、以下のアからウに該当する工事については、弘前労働基準監督署及び青森県中南地域県民局環境管理部に提出した事前調査結果の報告書の写しを監督職員に提出すること。

また、事前調査の際に疑義が生じた場合は、工事着手前に監督職員と対応について協議すること。

有資格者による事前調査及び分析調査の実施の義務付けは、令和5年10月1日から施行されるが、施行前であっても必要な知識及び技能を持った者に行わせることが望ましい。

ア 建築物の解体工事(解体部分の床面積の合計が80㎡以上)

イ 建築物の改修工事(請負金額が税込100万円以上)

ウ 工作物の解体工事又は改修工事(請負金額が税込100万円以上)

※ 詳細は青森県環境生活部環境保全課ホームページ

(https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/hozen/kanho_asbestos.html)、

環境省ホームページ(http://www.env.go.jp/air/asbestos/post_87.html)、

厚生労働省ホームページ(<https://www.ishiwata.mhlw.go.jp/>)を参照のこと。

(19) アスベストの処分等

撤去、処分に当たっては、建築物解体工事共通仕様書6章「石綿含有建材の除去及び処理」及び「石綿障害予防規則(平成17年2月24日厚生労働省令第21号)」、その他関係法規に準拠すると共に、「建築物の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル(令和3年3月 厚労省、環境省)」を活用し、適切に施工すること。

また、図面等がないアスベスト含有建材が判明した場合は、判明した日から7日以内に監督職員へ報告し、対応について協議すること。

ア アスベスト含有建材

■ なし

□ あり(図示による)

イ 専門工事業者

■ 対象外

□ 対象

アスベスト含有建材の除去を直接行う専門工事業者については、工事に相応した技術を有することを証明する資料を監督職員に提出すること。

ウ 石綿作業主任者

石綿作業主任者技能講習又はH18.3以前の特定化学物質等作業主任者の有資格者のうちから選任すること。

エ 除去業者

アスベスト除去作業を行う労働者は、石綿障害予防規則に基づく特別の教育を受けた者であること。

(20) 伐木・抜根材の有効利用システム

- ☒ 対象外
☐ 対象

伐木・抜根材が発生する場合は、樹種、部位別に分別し、1～3m程度の長さに切断、土砂等を除去し、1 m未満のものを含めて集積し、整然とした状態で引渡期間中現場内に保管すること。

現場内に保管できない場合は監督職員の指示に従う。保管にあたっては、ロープ等で固定するなど盗難、飛散対策を行い、周辺環境に悪影響を与えないよう注意すること。また、保管場所には適切な表示を行うこと(内容は監督職員の指示による)。なお、これら有用化に必要な費用は本工事に含まれている。

「伐木・抜根材発生情報提供システム」とは、発生した伐木・抜根材の発生情報をインターネットで公表し、有用物として有効利用する一般の希望者へ提供することを目的としたものである。

(21) 化学物質の濃度測定

- ☐ 対象外
☒ 対象

工事完成前に、ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の室内濃度の測定を行い、測定結果報告書を監督職員に提出すること。また、測定の結果が厚生労働省が設定した化学物質の室内濃度の指針値を超えた場合は、監督職員と協議すること。

ア 測定対象化学物質

- ☒ ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン
☐ ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン、パラジクロロベンゼン

イ 測定対象室・測定箇所数

図示する。

ウ 測定方法

(ア) 空気の採取

- ☐ 拡散方式(測定バッジ)
☐ 拡散方式(パッシブサンプラー)
☐ 拡散方式(パッシブガスチューブ)
☐ 吸引方式

(イ) 測定・分析は、厚生労働省が室内空气中化学物質の濃度を測定するための標準的方法として示した以下の方法によって行う。または、以下と関連の高い方法によって行うこともできる。

- ・ホルムアルデヒド：高速液体クロマトグラフ法
- ・揮発性有機化合物：ガスクロマトグラフィー質量分析法

(22) 技術検査

工事施工途中における技術検査(中間検査)は下表を原則とし、監督職員と協議すること。なお、技術検査時に工事写真等を電子データにより検査する場合、必要となる機器の準備及び操作は受注者が行う。

ア 建築工事

(ア) 新営工事

構造	検査工程
RC造(SRC造含む)にあつては、3階建て以上のもの又は延べ面積が500㎡を超えるもの	基礎工事完了時 躯体工事完了時(原則1階)
S造にあつては、3階建て以上のもの又は延べ面積が500㎡を超えるもの並びに20mを超えるスパンを有するもの	基礎工事完了時 鉄骨建方完了時
W造にあつては、延べ面積が500㎡を超えるもの	軸組完了時
用途、構造及びその他の事由により必要と認められるもの	<input type="checkbox"/> 基礎工事完了時 <input type="checkbox"/> 躯体工事完了時

(イ) 改修工事・解体工事

- ☐ 躯体の改修又は補修が工事に含まれ、仕上げ工事により品質の確認が困難と予想される場合は、改修又は補修工法の施工完了時に行う。
- ☐ 屋根等の主要な工事部分について、工事施工中の仮設足場がなければ確認困難と予想される場合は、仮設足場撤去前に新営工事に準じて行う。
- ☐ その他、発注者が必要と認めた工程(別途監督職員の指示による)で行う。

イ 設備工事

(ア) 新営工事

機材が天井仕上げ等で隠ぺいされる前(原則1回)に行う。

主要な機器が水没等により不可視となる前に行う。

発注者が必要と認めた工程(別途監督職員の指示による)で行う。

(イ) 改修工事

新営工事に準じて行う。

(23) 工事の下請負

受注者は、下請負に付する場合には次に掲げる要件をすべて満たさなければならない。また、可能な限り地元建設業者を使用すること。

- ア 受注者が、工事の施工につき総合的に企画、指導及び調整するものであること。
- イ 弘前市建設工事下請負の適正化に関する施工体制点検要領によること。
- ウ 下請負者は、当該下請負工事の施工能力を有すること。

(24) 報告書

ア 施工体制台帳及び施工体系図

下請負業者と契約締結後速やかに、施工体制台帳及び施工体系図を監督職員に提出すること。

イ 主要機器資材メーカー報告書

使用する主要機器資材メーカー報告書を監督職員に提出すること。

ウ 技能士報告書

技能士が適用された場合は、報告書を監督職員に提出すること。

(25) 工事の一時中止

ア 工事の一時中止に係る計画の作成

契約書第20条の規定により工事の一時中止の通知を受けた場合は、中止期間中における工事現場の管理に関する計画(以下「基本計画書」という。)を発注者に提出し、承諾を受けること。なお、基本計画書には、中止時点における工事の出来形、職員の体制、労働者数、搬入材料及び建設機械器具等の確認に関すること、中止に伴う工事現場の体制の縮小と再開に関すること及び工事現場の維持管理に関する基本的事項を明らかにすること。

イ 工事の施工を一時中止する場合は、工事の続行に備え工事現場を保全すること。

(26) 提出図書等

ア 着工前、施工中の提出図書(改修工事用)

提出図書等	提出時期	部数	備考
<input type="checkbox"/> 施工数量調査報告書	着工前	1部	
<input type="checkbox"/> 解体等工事に係る事前調査説明書	着工前	1部	
<input type="checkbox"/> 事前調査結果(等)報告書の写し	着工前	1部	大気汚染防止法第18条の15第6項及び石綿障害予防規則第4条の2の規定による報告の写し
<input type="checkbox"/> アスベスト粉じん濃度測定報告書(速報)	測定の都度速やかに	1部	
<input type="checkbox"/> アスベスト除去業者の技術証明	アスベスト除去作業着手前	1部	施工実績等
<input type="checkbox"/> 特定粉じん排出等作業完了報告書	アスベスト除去作業後速やかに	1部	
<input type="checkbox"/> 特殊な建設副産物調査結果報告書	速やかに	1部	
<input type="checkbox"/> フロン類を使用している設備器機の有無の報告書	速やかに	1部	
<input type="checkbox"/> フロン類の引取証明書(写し)	速やかに	1部	
<input type="checkbox"/> 各種調査・分析結果報告書	速やかに	1部	

イ 完成時の提出図書

提出図書等	部数	備考
完成写真(改修工事の場合は着工前を左、完成写真を右に入れる)	2部	うち電子納品1部
工事写真	2部	うち電子納品1部
実施工程表	1部	
完成図		
<input type="checkbox"/> 二つ折り製本		
<input checked="" type="checkbox"/> A4判二つ折り製本	3部	
<input type="checkbox"/> 黒表紙金文字入製本(折りたたみ→A4)		
<input checked="" type="checkbox"/> CADによるSXF(P21)形式、オリジナル形式及びPDF形式(全ての図面及び特記仕様書を1つのPDFファイルにまとめ、DRAWINGファイルフォルダに格納)	1部	
施工計画書(工事期間中に監督職員の承諾を受けたもの)	1部	

承認図	2部	うち電子納品1部
施工図	2部	うち電子納品1部
保全に関する資料(標仕(1.7.3)(1)に示す内容)	2部	
■ 建築物等の利用に関する説明書		
■ 機器取扱い説明書		
■ 機器性能試験成績書		
■ 官公署届出書類		
■ 主要材料、機器一覧表		
□ 総合試運転調整報告書		
工事関係資料	2部	
■ 施工者連絡先一覧表		
■ 打合記録簿(指摘事項及び協議記録等)		
■ 機器完成図		
■ 機器設定値等一覧表(温度、圧力、風量、作動範囲等の設定値及びその設定者等)		
■ 機器付属品・保守工具等一覧表		
□ アスベスト粉じん濃度測定報告書(とりまとめたもの)		
□		
その他監督職員が指示する書類	1部	
■ 現場説明書		
□		

ウ その他

(ア) 電子納品は、「青森県営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン」による。

(イ) 提出図書等は、折りたたみコンテナ(D530*W366、蓋無し、容量40～500程度)に納めて納入すること。また、外装に工事名及び受注者名を記入すること。

(ウ) 貸与されたCADデータは本工事における施工図及び竣工図の作成のため以外に使用しないこと。

(エ) 月毎の工事進捗等について、報告書を報告対象月の翌月5日までに監督職員の指示する様式により提出すること。

(オ) 工事の着工に先立ち、総合的な計画をまとめた総合計画書を提出すること。また、品質計画・一工程に施工の確認を行う段階及び施工の具体的な計画を定めた工種別の施工計画書を当該工事の施工に先立ち提出すること。

(カ) 受注者は自ら立案実施した創意工夫や技術力に関する項目または地域社会への貢献として評価できる項目について、工事完成までに監督職員の指示する様式により、監督職員へ提出することができる。

(キ) 契約後、図面A4判二つ折り製本4部を提出すること。

6 工事種別共通事項

(1) 土工事

■ 建設発生土の処理

- 構外搬出適正処理（参考標準運搬距離 7 km）
- 構内指示の場所に敷き均し
- 構内指示の場所に堆積
- 構外指示の場所に処分（受入れ施設名、受入れ場所、仮置場所、搬出調書等を提出する。）

(2) 地業工事

□ 杭、地盤の載荷試験

杭、地盤の試験の方法及び報告書の記載事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部「敷地調査共通仕様書」を標準とする。

□ 六価クロム溶出試験

地盤改良工事等でセメント及びセメント系固化材を使用する場合は、六価クロム溶出試験要領により、試験を実施し試験結果（計量証明書）を監督職員に提出すること。

- 配合設計段階（ 検体）
- 施工段階（ 検体）

(3) コンクリート工事

■ 骨材

構造体に関する耐震安全性の分類がⅠ類以外の建築物で、地域等によって区分Bの骨材を使用せざるを得ない場合、監督職員と協議し、次のいずれかの方法により承諾を受けた場合に限り使用できる。

- ア アルカリ総量が3.0kg/m³以下であることを配合計画書により確認。
- イ 抑制効果のある混合セメントを使用。

■ 品質管理

構造体に用いるコンクリート用骨材の品質試験を実施すること。

ア アルカリシリカ反応性試験の方法は化学法(JIS A 1145)又は迅速法(JIS A 1804)による。

イ 実施計画書

コンクリート製造工場の選定後、速やかに品質試験実施計画書を作成し、監督職員に提出すること。

ウ 試料の採取

原則として受注者の立会いのもと試料の採取を行うこと。

エ 試験の実施

計画調査書の作成前に、原則として試験機関に委託し実施すること。試験の実施後、6ヶ月を経過する都度及び産地が変わった場合には、再試験を実施すること。

オ 試験結果の報告

試験の結果は書面により、速やかに報告すること。

カ その他

アルカリシリカ反応性試験の結果、区分がBと判定された場合は、監督職員と協議すること。

(4) 木工事

■ 材料

樹種 ■ 標準仕様書の「ひのき」は「ひば」と読み替える。

(5) 塗装工事

■ 塗装業者

（一社）日本塗装工業会の会員又は監督職員の承諾する者とする。